

# EMECS

# No.20

## NEWSLETTER

### 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2001)

#### - プログラムの概要 -

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2001)では、日本を含む37ヶ国から、モニタリングの最新情報や親水域の修復技術、沿岸域の総合ガバナンス、環境教育等、閉鎖性海域の環境保全に関する約100の口頭発表と約180のポスター発表が行われます。

この会議では、発表要旨の応募テーマに基づく5つの分科会(口頭発表・ポスター発表)のほか、97年のナホトカ号による重油流出事故の際のNGOや市民、行政、研究者達の連携等を取り上げた「海洋流出油の環境影響と対策セッション」や最近、社会問題にもなっている有明海にスポットを当てた「有明海セッション」、さらには、アジアとの連携、NGOとの協働、瀬戸内の環境保全にスポットを当てた3つの特別セッション(アジア・フォーラム、NGOフォーラム、瀬戸内海セッション)を設けられており、全日程にわたって、海外からの有識者とともに将来の沿岸域管理のあり方について討議がなされる絶好の機会になります。

テーマ 21世紀の人と自然の共生のための沿岸域管理に向けて  
日 時 平成13年11月19日(月)~22日(木)  
場 所 19~21日 神戸ポートピアホテル  
22日 淡路夢舞台国際会議場  
主 催 環境省・兵庫県・神戸市・(財)国際エメックスセンター

#### 参加登録受付中!

#### <参加登録はホームページから>

会議への参加希望者は、事前にEMECS2001ホームページ又は、参加登録用紙の郵送・FAXによる参加登録が必要となっています。参加登録には、全会議に参加できる「全日登録」と会期中の1日のみに参加できる「1日登録」があり、登録料は 全日登録=一般2万円、学生1万円 1日登録=一般3千円、学生2千円となっています。

お問い合わせ先  
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会事務局  
ホームページURL: <http://emecs2001.jtbcom.co.jp>  
E-mail: 2001@emecs.or.jp  
申し込み先  
EMECS2001登録事務局  
〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル本館6F  
(株)ジェイコム企画情報室内  
TEL:06-6348-0815 FAX:06-6348-0175  
E-mail:emecs2001reg@jtbcom.co.jp

#### 会議日程と構成

#### 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議日程

	11月18日(日)	11月19日(月)	11月20日(火)	11月21日(水)	11月22日(木)	
会議本 体と 関連 プロ グラ ム	午前 9:00 ~ 12:00		参加受付登録 8:00~(ポートピアホテル) アジアフォーラム 9:30~12:30	参加受付登録 8:00~(ポートピアホテル) 第1~第5分科会(口頭発表) 9:00~12:30 海洋流出油の環境影響と対策セッション 9:00~12:30	瀬戸内海セッション 9:30~12:00 淡路夢舞台イベントホール	
	午後 12:00 ~ 18:00	テクニカルツアー 13:00~18:30 ポートピアホテル本館B1入口	参加登録受付 12:00~14:00 開会式 14:00~14:40 ポートピアホール 基調講演 15:00~15:40 特別講演 16:00~17:30 ポートピアホール	第1~第5分科会(口頭発表) 12:30~14:30 第1~第5分科会(口頭発表) 14:30~17:00	第1~第5分科会(口頭発表) 13:30~17:00 海洋流出油の環境影響と対策セッション 13:30~17:00	総括全体会議 13:00~15:30 淡路夢舞台メインホール
	夜 18:00 ~		オープニングパーティー 18:30~20:00	コアタイム 17:30~19:30 有明海セッション 17:30~20:00	コアタイム 17:30~19:30	閉会式 15:45~16:30 淡路夢舞台メインホール さよならパーティー 16:50~18:30 ウェスティンホテル淡路
	サイド プログラ ム	環境修復・創造エキスポ(環境修復・創造技術展) 神戸国際展示場1号館 環境教育フェア(国際環境教育用教材展) 神戸国際展示場1号館				

目次	EMECS2001プログラムの概要	1	会議情報 沿岸域カナダ2002五大湖	12
	ストックホルム世界水週間	10	事務局からのお知らせ	12
	セマングム干潟を救え!	11		

プログラム

注) 発表者・タイトルは10月23日現在のもの調整中のもも含みます。また口頭発表の和文タイトルについては事務局仮訳も含みます。ポスター発表のタイトルやプログラムに関する詳細並びに最新情報についてはEMECS2001のホームページ(<http://emecs2001.jtbcom.co.jp>)をご覧ください。

11月19日(月)

開会式 14:00~14:40

開会挨拶 近藤 次郎 (第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会 会長)

主催者挨拶 川口 順子 (環境大臣)

来賓挨拶・祝辞

基調講演 15:00~15:40

ヨーカ・ウォラーハンター (経済協力開発機構(OECD)環境局長)  
「エコシステムの評価に向けて  
- 地球資源の持続可能な管理を進めるために -」

特別講演 16:00~17:30

安藤 忠雄 (東京大学教授・建築家)

貝原 俊民 (前兵庫県知事)

11月20日(火)

アジアフォーラム 9:30~12:30

アジアの閉鎖性海域の現状を明らかにし、中長期的展望、国際社会に向けての政策提言を行う。

コ-ディネ-タ-  
三村 信男  
(茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授)  
ラポター  
谷津龍太郎  
(アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長)

報告及び討議参加者

- ・ 細川 恭史(国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長)
- ・ Prof. Sanit Aksornko(タイ・カセサート大学森林学部教授)
- ・ Prof. Porfirio M. Alino(フィリピン大学海洋研究所副所長)
- ・ Dr. Voravit Cheevaporn(タイ・プラバ大学大学院環境科学研究科長)
- ・ Dr. Dong-Young Lee(韓国・中国共同海洋研究センター所長)
- ・ Dr. Jingshan Yu(中国・北京師範大学環境科学研究所助教授)

NGOフォーラム 12:30~14:30

市民・NGOの視点や能力が未解決の閉鎖性海域の課題に示唆を与えている姿を捉え、「沿岸域を守るNGOと行政と研究者のパートナーシップのこれから - 瀬戸内海と世界の海を守るNGO活動を通じて考える」をテーマとし、異なる地域や世代間のパートナーシップを目指した議論を展開し、新たなEMECS活動のための具体的な方策を提言する。

コーディネーター  
東梅 貞義  
(世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン))  
バイスコーディネーター  
傘木 宏夫  
(財)公害地域再生センター(あおぞら財団))  
ラポター  
小沢 秀造  
(弁護士 瀬戸内の環境を守る連絡会事務局長)

報告及び討議参加者

- ・ Mr.Pisit Charnsnoh (Yadfon Association)
- ・ Mr.Lee Yujin (Green Korea コーディネーター)
- ・ 清野 聡子 (東京大学大学院助手)
- ・ 小沢 秀造 (弁護士 瀬戸内の環境を守る連絡会事務局長)
- ・ 辻 淳夫 (日本湿地ネットワーク代表(藤前干潟を守る会代表))
- ・ 松田 治 (広島大学生物生産学部教授)
- ・ 小島あずさ (クリーンアップ全国事務局代表)

11月20日(火)・21日(水)

第1分科会「沿岸域におけるモニタリングと環境情報の果たす役割」

20日 14:30~17:00 21日 9:00~17:00

コーディネーター  
ジャンポール・デュクロトワ  
(英国・ハル大学教授)  
バイスコーディネーター  
三村 信男  
(茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授)  
ラポター  
柳 哲雄  
(九州大学応用力学研究所教授)

口頭発表

- ・ 「日本海洋データセンターにおける海洋生物データ管理」  
千葉 毅 (日本海洋データセンター, 日本)
- ・ 「建設的な対話と責任ある行動を通じた環境の持続可能な退役について: 北海Frigg Fieldの場合」  
Mr. SHASTRI, Sunil M. (Centre for Coastal Studies, the University of Hull, U.K.)
- ・ 「浅海域における一次生産由来沈降粒子の見積もり」  
山口 一岩 (香川大学 農学部 生命機能学科, 日本)
- ・ 「1850年から現在までの大阪湾堆積物に対する重金属元素負荷量の歴史的変遷」  
山崎 秀夫 (近畿大学理工学部, 日本)
- ・ 「干潟土壌におけるフォスファターゼ活性測定と活性値を利用した干潟分類化について」  
中村 健一 (県立広島女子大学健康科学科, 日本)
- ・ 「東京湾における環境評価に関する研究」  
星 隆伸 (財団法人 下水道新技術推進機構, 日本)
- ・ 「確率的に変動する気象条件に基づく貧酸素水塊の発生に関する研究」  
田中 憲一 (財)九州環境管理協会, 日本)
- ・ 「大阪湾におけるヨシエビ浮遊幼生の個体群動態」  
寺澤 知彦 ((株)シーティーアイ 科学技術部, 日本)
- ・ 「水、化学物質、底質流動の合成ダイナミクス評価のためのRank Models」  
Dr. PENKOVA, Natalia V. (Water Resources and Water Budget Laboratory, State Hydrological Institute, RUSSIA)

- ・「海健康診断」 - これからの海洋環境モニタリング -  
大川 光 (財団法人シップ・アンド・オーシャン財団, 日本)
- ・「豊後水道における海洋環境連続モニタリングシステムの構築」  
速水 祐一 (愛媛大学 工学部 環境建設工学科, 日本)
- ・「内湾域の総合的な環境把握を目指したモデルの構築と東京湾への適用」  
岡田 知也 (国土交通省国土技術政策総合研究所, 日本)
- ・「ナイジェリアにおける交差する河口域でのマングローブ地図の作成」  
Prof. **HOLZLOEHNER, Sieghard** (University of calabar, Institute of Oceanography, **NIGERIA**)
- ・「港湾埋立の地理的経済的背景の分析」  
鈴木 武 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸域システム研究室, 日本)
- ・「生物適合性リズム：伊勢・五箇所湾における現場モニタリングから教訓」  
紀本 岳志 (財団法人海洋化学研究所, 日本)
- ・「大型藻類群の評価による沿岸環境の長期モニタリングとその特徴」  
Mr. **KHOY, Khim** (Ministry of Industry, Mines and Energy Department of Potable Water Supply, **CAMBODIA**)
- ・バルチモア港における化学物質の日別全最大負荷量解析  
Dr. **SUMMERS, Robert M** (Maryland Department of the Environment, **USA**)
- ・「陸奥湾海中の小型プランクトン画分が保有する下痢性貝毒のELISA法によるモニタリング：ホタテガイ毒化との関係」  
今井 一郎 (京都大学大学院農学研究科応用生物学専攻, 日本)

## 総合討論

## 第1分科会ポスター発表者

Mr. **ABUHENA, Mustafa KAMAL** (PhD Candidate Aquatic Biology, Dept. of Biology, Universiti Putra Malaysia, **MALAYSIA**) / Dr. **PARANHOS, Rodolfo** (Departamento de Biologia Marinha -Instituto de Biologia -Universidade do Brasil - UFRJ, **BRAZIL**) / 岡村 秀雄 (岡山大学資源生物科学研究所, 日本) / Mr. **KARIM, Md. REZAUL** (Doctoral Student, Department of Civil Engineering, Yamaguchi University, Japan, **BANGLADESH**) / 後藤 隆雄 (神戸大学 工学部, 日本) / Ms. **BASOVA, Svetlana L.** (Nord-West Administration of Roshydromet, **RUSSIA**) / Mr. **HAJISAMAE, Sukree** (Department of Biological sciences, National University of Singapore, **SINGAPORE**) / Dr. **FAHMY, Mamdouh AMIN** (National Institute of Oceanography and Fisheries, **EGYPT**) / Mr. **SRITHONGOUTHAI, Sarawut** (Department of Life Sciences, Faculty of Agriculture, Kagawa University, Japan, **JAPAN**) /

Dr. **BOLOGA, Alexandru S.** (National Institute for Marine Research and Development Grigore Antipa, **ROMANIA**) / Prof. **PETROOSHINA, Marina NIKOLAEVNA** (Department of Physical Geography & Landscapes, Geography Faculty, Moscow State University, **RUSSIA**) / 渡部 守義 (山口大学工学部, 日本) / 大森 浩二 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター, 日本) / 村上 和仁 (千葉工業大学, 日本) / 徳岡 誠人 (日本ミクニヤ株式会社, 日本) / 石井 裕一 (千葉工業大学 土木工学科 (瀧教授気付き), 日本) / 小幡 健一 (金沢工業大学大学院, 日本) / Dr. **MOHANTY, Pratap KUMAR** (Department of Marine Sciences, Berhampur University, Berhampur, Orissa, India, **INDIA**) / 中川 芳江 (株式会社ネイチャースケープ, 日本) / 藤井 暁彦 (財九州環境管理協会 環境部, 日本) / 広野 貴一 (アジア航測株式会社, 日本) / 川井 浩史 (神戸大学 内海域機能教育研究センター, 日本) / 細田 龍介 (大阪府立大学大学院工学研究科, 日本) / Dr. **Yesim COBAN YILDIZ** (Middle East Technical University, Institute of Marine Sciences, **TURKEY**) / 門谷 茂 (香川大学農学部生命機能科学科, 日本) / Prof. **HUANG, Liangmin** (South China Sea Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences, **REPUBLIC OF CHINA**) / Prof. **MELCHIOR, Rwegasira** (University College of lands and Architectural studies UCLAS Environmental Engineering Department, **TANZANIA**) / Prof. **DORGHAM, Mohamed MOUSSA** (Oceanography Department, Faculty of Science, Moharrem Bey, Alexandria University, **EGYPT**) / Mr. **MAKAOUI, Ahmed** (Institut national de recherche halieutique, departmen d' oceanouraphie, **MOROCCO**) / Dr. **MELLOUL, Abraham J.** (Ministry of National Infrastructures Hydrological Service, **ISRAEL**) / Mr. **THOHA, Hikmah** (Research and Development Center for Oceanology, Indonesian Institute of Sciences, **INDONESIA**) / Dr. **MARIA, Altamirano** (Kobe University Research Center for Inland Seas, **JAPAN**)

## 第2分科会「陸域と海域の相互作用と理解」

20日 14:30~17:00 21日 9:00~17:00

コーディネーター  
ベン・ヤンソン  
(スウェーデン・ストックホルム大学名誉教授)  
バイスコordinater  
松田 治  
(広島大学生物生産学部教授)  
ラポーター  
デヴィッド・キャロル  
(米国 ボルティモア郡環境保護資源管理部長)

## 基調報告

- ・「香港における海洋養殖の環境管理」

Prof. **LEE, Joseph HUN-WEI** (Department of Civil Engineering The University of Hong Kong, **CHINA**)

## 口頭発表

- ・「水中バックホウを用いた藻場管理；青森県大間町地先海域における事例の検討」

鈴木 秀男 (東亜建設工業(株) 土木本部 技術開発部 技術開発三課, 日本)

- ・「東カナダにおける商業的Brown Seaweedacophyllum Nodosum 管理のための生態系アプローチの評価」

**Dr. UGARTE, Raul A.** (Acadian Seaplants Limited,, CANADA)

- ・「アニリン殺虫剤によるNzoia川とビクトリア湖での汚染と生産物の変質：閉鎖性海域の環境管理のための教訓」

**Mr. NZYUKO, Daniel M.** (School of Environmental studies, Moi University, KENYA)

- ・「富栄養化した内湾底層環境がもつ自浄力の季節変動および光ファバーを用いたその促進」

深見 公雄 (高知大学農学部水族環境学研究室, 日本)

- ・「浅い沿岸干潟・松川浦で観察された天然の水浄化システム」

木幡 邦男 (独立行政法人 国立環境研究所流域圏環境管理研究プロジェクト海域環境管理研究チーム, 日本)

- ・「黒海汚染による生物学的結果」

**Dr. RUDNEVA, Irina** (Institute of The Biology of The Southern Seas, UKRINE)

- ・「90年代第2半期におけるゼラチン状マクロプランクトンのレベルに関する沿岸水域のモニタリング結果について (黒海クリミア沿岸)」

**Prof. IGNATYEV, Sergey** (Institute of The Biology of The Southern Seas, UKRINE)

- ・「閉鎖性海域におけるクラゲ類の大量発生：その原因と影響」

上 真一 (広島大学生物生産学部, 日本)

- ・「Corpus Christi湾 (テキサス) における塩分濃度変化：水路拡張による」

**Dr. MATSUMOTO, Junji** (Texas Water Development Board, USA)

- ・「アデン湾と南紅海の水路学における季節変動性」

**Prof. ABDALLAH, Abdallah MOHAMED** (Oceanography Department, Faculty of Science ,University of Alexandria, EGYPT)

- ・「東京湾におけるダイオキシン分布調査」

細見 正明 (東京農工大学工学部化学システム工学科, 日本)

- ・「淡水と海水の相互作用モデルの開発のためのリモートセンシングとGIS：インドにおけるケーススタディ」

**Dr. MAREDDY, Anji REDDY** (I.P.G.S.R Centre for Environment Jawaharlal Nehru Technological University, INDIA)

- ・「沿岸域の環境管理における科学的必要事項：アドリア海の場合」

**Prof. JURACI, Mladen** (Faculty of Science, University of Zagreb, CROATIA)

- ・「流域別下水道整備総合計画」

内田 勉 (国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官室, 日本)

- ・「農業、都市、産業を例にしたフィンランドにおける海洋環境への排水削減および規制のための戦略」

**Dr. KOHONEN, Tapani** (Finnish Ministry of the Environment, Environmental Protection Department, FINLAND)

- ・「第5次総量規制について」

荒木 智行 (環境省環境管理局水環境局閉鎖性海域対策室, 日本)

## 総合討論

### 第2分科会ポスター発表者

永井 達樹 (瀬戸内海区水産研究所, 日本) / **Dr. SAKSON, Maire**

(Geological Society of Estonia, ESTONIA) / 青木 豊明 (大阪府立大学大学院工学研究科, 日本) / 永井 達樹 (瀬戸内海区水産研究所, 日本) / **Dr. PAIMPILLIL, Joseph SEBASTIAN**

(Environmental Solutions, INDIA) / **Prof. HUANG , Xiaoping** (South China Sea Insitute of Oceanology, the Chinese Academy of Sciences, CHINA)

/ **Dr. UKWE, Chika N** (Department of chemistry faculty of science, university of lagos, akoka, c/o p.o. box 2075 lagos, nigeria, NIGERIA) / 田中 裕作 (財) 港湾空間高度化環境研究センター, 日本) / **Mr. NAYAR, Sasi**

(Reef Ecology Laboratory, Department of Biological Sciences, National University of Singapore, SINGAPORE) / **Dr. TON, Phap T.** (Department of Biology - Hue University of Sciences, VIETNAM) / 永光 弘明 (姫路工業大学工学研究科, 日本) / **Dr. KRYLENKOVA, Nataliya L'VOVNA**

(Institute of Lymnology of the Russian Academy of Sciences, RUSSIA) / 山本 民次 (広島大学大学院生物圏科学研究科, 日本) / 梅本 諭 (兵庫県立公害研究所, 日本) / 齊藤のどか (香川大学農学部 生命機能科学科, 日本) / 呉 碩津 (広島大学, 日本) / 矢野 隆司 (愛媛県立衛生環境研究所, 日本) / **Ms. CAMPOS, Monica P**

(Swedish University of Agricultural Sciences Department of Economics, SWEDEN) / 栗山 雄司 (東京水産大学 海洋生産学科, 日本) / 田代 豊 (沖縄県公衆衛生協会, 日本) / 松田 治 (広島大学生物生産学部) / 楠井 隆史 (富山県立大学短期大学部, 日本) / **Dr. IGNATYEVA, Natalia V.** (Institute of Limnology of the Russian Academy of Sciences, RUSSIA) / **Dr. ARIFIN, Zainal**

(Research and Development Centre for Oceanology - LIPI, INDONESIA) / 秦野 善行 (近畿大学 理工学部 化学科, 日本) / 奥村 裕 (独立行政法人 水産総合研究センター東北区水産研究所, 日本) / 後藤 崇 (日本大学大学院生物資源科学研究科, 日本) / 久保田富次郎 (独立行政法人 農業工学研究所, 日本) 武本 行正 (四日市大学環境情報学部, 日本) / 中野 武 (兵庫県立公害研究所, 日本) / **Prof. HA, Sung RYONG** (Dept. of Urban Engineering, Chungbuk National University, REPUBLIC OF KOREA) / 藤原 建紀 (京都大学大学院農学研究科海洋生物環境学分野, 日本) / 平田 静子 (産業技術総合研究所中国センター, 日本) / **Prof. SAAD , Massoud A.H.** (Alexandria University, EGYPT) / 原田 浩幸 (熊本大学工学部環境システム工学科, 日本) / **Dr. VUKADIN, Ilija**

- (Institute for Oceanography and Fisheries, CROATIA) / 桜井 清治 (株式会社ブランドウ, 日本) / 宮崎 昭仁 (舞鶴工業高等専門学校, 日本) / Mr. CHETLAPALLI, Mohana VAMSHI (Centre for Environment, J.N.T University, INDIA) / 小倉 久子 (千葉県環境研究センター企画情報室, 日本) / 天野 幹大 (京都大学大学院工学研究科環境工学専攻, 日本) / 駒井 幸雄 (兵庫県立公害研究所, 日本) / Dr. KUZNYETSOV, Volodymyr V. (Head, Department of International Research Projects MINISTRY OF ECOLOGY AND NATURAL RESOURCES OF UKRAINE, UKRAINE) / 内田 直行 (日本大学生物資源科学部, 日本) / 古武家 善成 (兵庫県立公害研究所, 日本) / Prof. MATO, Rubhera R.A.M (Department of Environmental Engineering, University College of Lands & Architectural Studies, TANZANIA) / 中辻 啓二 (大阪大学大学院 工学研究科 土木工学専攻, 日本) / Dr. BALODE, Maija (Institute of aquatic ecology, university of latvia, LATVIA) / 玉本 博之 (独立行政法人土木研究所水循環研究グループ, 日本) / 矢野 丘 (神戸市建設局下水道河川部計画課, 日本) / Mr. OH, Jae Ryoung (Chemical Oceanography Div., KORDI, KOREA) / 松本 基督 (天草の海からホルマリンをなくす会, 日本) / Prof. MENASVETA, Piamsak (Department of Marine Science Faculty of Science, Chulalongkorn University, THAILAND) / Dr. BARTOSZCZUK, Pawel (Japan Advanced Institute of Science and Technology School of Knowledge Science, JAPAN) / 園田 竹雪 (兵庫県県民生活部環境局水質課, 日本)

### 第3分科会「沿岸域の環境修復・創造と都市再生に向けた取り組み」

20日 14:30~17:00 21日 9:00~17:00

コーディネーター  
エルダール・オーザン  
(トルコ・中東工科大学教授)  
バイスコーディネーター  
盛岡 通  
(大阪大学大学院工学研究科環境工学教授)  
ラポーター  
細川 恭史  
(国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長)

#### 口頭発表

- ・ 都会の生態系管理：沿岸流域修復、ニューヨーク港における修復科学、基金、自然系モニタリングのケーススタディ  
Mr. MATSIL, Marc A (Natural Resources Group, City of New York-Parks Natural Resources, USA)
- ・ 「大阪湾沿岸域環境グランドプランの提案」  
村田武一郎 (奈良県立大学 / 特定非営利活動法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター, 日本)
- ・ 「統合的な環境社会経済アプローチ：黒海生態環境を把握するデザイン」  
Prof. MONCHEVA, Snejana P. (Institute of Oceanology, Bulgarian Academy of Sciences, BULGARIA)

- ・ ギニア湾での環境および生物資源管理におけるパラダイムシフトの成功に向けて：大きな海洋生態系アプローチ  
Dr. UKWE, Chika N (Department of Chemistry, Faculty of Science University of Lagos Akoka, NIGERIA)
- ・ 「航路浚渫砂の有効活用による三河湾の水底質環境改善」  
今村 均 ((財) 港湾空間高度化環境研究センター, 日本)
- ・ 「ベトナムの主要な港における自然保護と開発を調和させるローカルコミュニティ生活の改善」  
Dr. VO TRI, Chung, (Forest Resources and Environment Center The Forest Inventory and Planning Institute, VIETNAM)
- ・ 「Laguna de Bayの持続的開発を支援する決定支援システムの設立」  
Mr. NAUTA, Tjitte A. (Laguna Lake Development Authority, PHILIPPINES)
- ・ 「世界の最も住みやすいコミュニティのひとつとしての認識」  
Mr. FRIERSON, James W (Chattanooga Times Free Press, USA)
- ・ 「ジャパン・フローラ2001での傾斜岩盤の緑化」  
長谷川浩三 (兵庫県企業庁地域整備第2局長, 日本)
- ・ 「沿岸域管理のための総合的教育」  
Prof. GHOSH, Santosh KUMAR ((Hony President) Centre for Built Environment, INDIA)
- ・ 「河口域環境回復のための適切な技術による生態系手法」  
重松 孝昌 (大阪市立大学大学院, 日本)
- ・ 「水際における先祖伝来のものと海洋指標種の評価のための多くの調査技術」  
Prof. MEINESZ, Alexandre (GIS-Posidonie(NGO)-University of Nice-Parc Valrose, FRANCE)
- ・ 「大阪湾における覆砂と浚渫による水質と底質の改善」  
韓 銅珍 (㈱ハイドロソフト技術研究所, 日本)
- ・ "Reproduction of Ecosystems in Artificial Pebble and Rock Beach"  
酒井 哲郎 (京都大学大学院工学研究科 土木工学専攻, 日本)
- ・ 「タイ湾沿岸北部における見捨てられたえび養殖場の修復のための3つの異なる管理方法」  
Dr. ZAKIR, Hossain MD. (Integrated Tropical Coastal Zone Management (ITCZM) Asian Institute of Technology (AIT), THAILAND)

- ・「マングローブ修復と創造：脆弱な沿岸域の管理のための持続的な天然ツール」

**Mr. ABUHENA, Mustafa KAMAL** ( PhD Candidate ( Aquatic Biology ), Dept. of Biology, Universiti Putra Malaysia, MALAYSIA )

- ・「瀬戸内海におけるガラモ場の生態と回復技術」  
寺脇 利信 ( 独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所, 日本 )
- ・「閉鎖性海域における藻場育成調査について - 神戸港域での試み - 」  
橋本 郁男 ( 神戸市環境局, 日本 )

#### 総合討論

#### 第3分科会ポスター発表者

**Prof. EL-RAYIS, Osman A.** ( Oceanography Dept., Alexandria university, EGYPT ) / **Dr. AKUDINOBI, Bernard E.B.** ( Department of Geological Sciences, Nnamdi Azikiwe University, Awka, Nigeria, NIGERIA ) / **Prof. DI GREGORIO, Felice** ( Department of Geology, University of Cagliari, ITALY ) / 岩村 俊平 ( 株式会社エコ環境・計画部, 日本 ) / 芳田 利春 ( 東洋建設(株) 鳴尾研究所 水域環境研究室, 日本 ) / 鎌田 裕介 ( 大阪市都市環境局下水道部機械課, 日本 ) / 近藤 俊郎 ( 沿岸圏システム研究所, 日本 ) / 相原 昌志 ( 日本ミクニヤ株式会社 東京支店 環境部, 日本 ) / 木村 賢史 ( 東京都環境科学研究所基盤研究部 水質土壌対策チーム, 日本 ) / 小國 嘉之 ( 住友金属工業 ( 株 ), 日本 ) / 柵瀬 信夫 ( 鹿島建設技術研究所, 日本 ) / 滝野 秀男 ( 瀬戸内の環境を守る連絡会, 日本 ) / 山岡 耕作 ( 高知大学 農学部 栽培漁業学科 水族生態学研究室, 日本 ) / 小瀬 知洋 ( 広島大学工学研究科物質化学システム専攻, 日本 ) / 荻野 暁史 ( 農業技術研究機構畜産草地研究所畜産環境部畜産環境システム研究室, 日本 ) / 角野 浩二 ( 山口県環境保健研究センター, 日本 ) / 松永 久宏 ( 川崎製鉄株式会社 技術研究所, 日本 ) / 柏原 謙爾 ( 愛知県建設部下水道課, 日本 ) / 島多 義彦 ( 株式会社フジタ 技術センター 環境研究部, 日本 ) / 佐藤 裕司 ( 兵庫県立人と自然の博物館, 日本 ) / 宮崎 一 ( 兵庫県立公害研究所, 日本 ) / **Prof. TAYLOR, Dennis L.** ( Virginia Institute of Marine Science, College of William & Mary, USA ) / 伊藤 哲文 ( 東洋水研(株), 日本 ) / 中瀬 浩太 ( 五洋建設(株)技術研究所, 日本 ) / 北野 倫生 ( 徳島大学大学院工学研究科エコシステム工学専攻, 日本 ) / 柘植 隆宏 ( 神戸大学大学院 経済学研究科, 日本 ) / 國井 秀伸 ( 島根大学汽水域研究センター, 日本 ) / 宮岡 修二 ( 株式会社大林組技術研究所, 日本 ) / 桐原 隆 ( 横浜市下水道局経営企画課, 日本 ) / 戸川 進 ( 株式会社 クボタ 鉄管開発営業部, 日本 ) / 山本 裕規 ( 復建調査設計 ( 株 ) 環境技術部環境技術1課, 日本 ) / 熊澤 峻子 ( 日本水環境学会, 日本 ) / 中村 則之 ( 近畿地方整備局地域河川課, 日本 ) / 藤岡 克己 ( 島根大学生態工学科, 日本 ) / 赤井 一昭 ( 「海洋の空」研究グループ, 日本 ) / 東真 昭彦 ( 神戸市建設局下水道河川部計画課, 日本 ) / 松村 淳 ( ( 株 ) 関西総合環境センター, 日本 ) / 大河内将宜 ( 関西電力株式会社, 日本 )

#### 第4分科会「沿岸域の環境保全と環境教育・実践活動」

20日 14:30~17:00 21日 9:00~17:00

コーディネーター  
ウェイン・ベル  
( 米国・ワシントン大学環境社会センター所長 )  
バイスコーディネーター  
グローリア・スナイヴェリー  
( カナダ・ヴィクトリア大学教授 )  
ラポーター  
谷口 文章  
( 甲南大学文学部教授・人間科学科長 )

#### 基調報告

- ・「ひとつの海のように考えること：人と自然の共生を確かにする海洋教育の原則」

**Prof. Gloria SNAIVELLY** ( University of Victoria, British Columbia, CANADA )

- ・「アジア太平洋地域におけるユネスコ活動による海岸沿岸環境への注目度の構築」

**Mr. Maarten KUIJPER** ( Programme Specialist in Intergovernmental Oceanographic Commission for Western Pacific, THAILAND )

#### 口頭発表

- ・「海岸を守る若者たち：海洋環境を守るカナダの青少年」  
**Mr. BOIRE, Jason D** ( Fisheries and Oceans Canada CANADA )

- ・「科学教育のための環境としての沿岸海洋：チェサピーク湾での教訓」

**Dr. Bell, Wayne H.** ( Center for the Environment and Society Washington College, USA )

- ・「港の生物の観察から「海」の価値観を育む環境教育プログラムに関する検討」

中嶋 清徳 ( ( 財 ) 名古屋港水族館, 日本 )

- ・未 定

**Dr. Suraphol Sudara** ( Department of Marine Science, Faculty of Science, Chulalongkon University, THAILAND )

- ・「ロシアにおける環境教育と沿岸域環境の情報」

**Prof. SOKOLOV, Nikolay V.** ( Water Problems Institute of Russian Academy of Sciences, RUSSIA )

- ・「北西ヨーロッパにおける環境教育：北海の場合」

**Prof. DUCROTOY, Jean-Paul A.** ( Institute of Estuarine and Coastal Studies, the University of Hull, UK )

- ・「カンボジアにおけるコミュニティをベースとした沿岸資源管理」

**Mr. KIM, Nong** ( Wetland, Watershed and Coastal Zone Natural Conservation and Protection, Ministry of Environment, COLOMBIA )

- ・「小学校で取り組む有明海沿岸地域の環境教育」  
早川留美子 (WWF ジャパン ((財)世界自然保護基金ジャパン) 自然保護室, 日本)
- ・「環境報道における新聞の役割と限界 事例研究: 諫早湾干拓事業」  
大倉よし子 (クリーンアップ全国事務局/千葉大学留学生センター非常勤講師, 日本)
- ・「ギニア湾におけるICAMプログラムを行うNGOとコミュニティをベースとした組織」  
Prof. ADAM, Sikirou KOLAWOLE (CEDA (Centre for Environment and Development in Africa): NGO, BENIN)
- ・「ベンによって瀬戸内海を救う日本の詩人たちの戦い」  
ハーヴィー・シャピーロ (大阪芸術大学, 日本)
- ・「環境科学領域における科学研究参加の機会を与えられた高校生たち」  
Ms. CHAMBERS, Patricia I. (Stephen Decatur Middle School, USA)
- ・「地方の自然と緑の創造を通じた環境教育」  
飯尾 美行 (静岡県立浜松城北工業高等学校環境クラブ顧問, 日本)
- ・「コロンビア、チョコ部の沿岸域の持続的開発と環境・観光コリドー」  
Dr. CONTO GARCIA, Jose H. (Choco Governor's Staff, Gobernacion del Choco, COLOMBIA)
- ・「持続開発に向けた専門家の役割統合化による沿岸域環境教育」  
Prof. ALUNGAL, Balchand NARAYANANAIK (Centre for Integrated Management of Coastal Zones, CUSAT, INDIA)
- ・「市民ボランティアによる海の自然環境教育と環境保全活動」  
渡部 雅博 (兵庫県健康福祉局生活衛生課, 日本)

## 総合討論

## 第4分科会ポスター発表者

Prof. XAVIER, Sesurajam M. (Government Girls Higher Secondary School, INDIA) / Prof. SOUVOROV, Alexander V. (Moscow State University, Ecological Center fenix, RUSSIA) / 五島 康治 (瀬戸内の環境を守る連絡会, 日本) / Mr. POOTHONG, Sukhum (Faculty of Environment and Resource Studies, Mahidol University Salaya Campus, THAILAND) / 椎橋 文雄 (東京湾岸自治体環境保全会議, 日本) / 久保 裕志 (愛知県半田土木事務所, 日本) / 籠 正二 (新田高校, 日本) / 釘宮 浩三 (杵築なぎさの研究会, 日本) / 平田 学史 (日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻, 日本) / Ms. CHAMBERS, Patricia I. (Stephen Decatur Middle School, USA) / 住野 昭 (龍谷大学経営学部, 日本) / Dr. SARKAR, Santosh K. (Department of Marine Science, University of Calcutta, INDIA) / 白石 通弘 (瀬戸内海研究会議, 日本) / 中山 次郎 (わかやま海域環境研究機構, 日本) / Dr. SURESH, Madha

V (UNIVERSITY OF MADRAS, INDIA)

## 第5分科会「沿岸域環境管理における参加と連携」

20日 14:30~17:00 21日 9:00~17:00

コーディネーター  
トーマス・ショーエンバウム  
(米国・ジョージア大学教授)  
バイスコーディネーター  
ロバート・ベックマン  
(シンガポール国立大学法学部教授)  
ラポター  
イビカ・トランピック  
(国連環境計画PAPセンター所長)

## 基調報告

- ・「住民参加による産廃不法投棄地の原状回復 - 豊島の経験」  
中地 重晴 (環境監視研究所, 日本)
- ・「チェサピーク湾流域におけるスマート・グロース: 土地利用と気候変動、沿岸保護の相互作用」  
Dr. NISHIDA, Jane T (Maryland Department of the Environment USA)

## 口頭発表

- ・「九十九里浜の海岸侵食から学ぶ沿岸域管理の難しさ」  
吉田 哲朗 (日本財団, 日本)
- ・「カンボジアの沿岸域での環境管理、第2期」  
Mr. VANN, Monyneath (Ministry of Environmen, CAMBODIA)
- ・「Rekawa Lagoon、沿岸資源管理への女性参加の効用、スリランカの場合」  
Ms. WICKRAMANAYAKE, Mangala I. (Coast Conservation Department, SRILANKA)
- ・「Blue Current Natural Gaz Pipelineのための環境影響評価」  
Mr BEBEK, Mustafa T. (Ministry of Environment, TURKEY)
- ・「エコロジーソーシャルムーブメントのモデル」  
中川 芳江 (株式会社ネイチャースケープ, 日本)
- ・「沿岸域管理に向けた多くのセクターのアプローチによる挑戦: インド・タミルナツ州の選ばれた地域におけるケーススタディ」  
Dr. KRISHNAMOORTHY, Ramasamy (Department of Applied Geology, School of Earth & Atmospheric Sciences, UNIVERSITY OF MADRAS, INDIA)
- ・「沿岸環境影響評価のためのGISベースの決定支援システム」  
沈 一揚 (地球フロンティア研究システム, 日本)
- ・「水質管理のための排出取引 - 制度のしくみとチェサピーク湾における取り組み」  
西澤栄一郎 (法政大学経済学部, 日本)

- ・「日本における沿岸域法管理制度の改革」  
荏原 明則（神戸学院大学，日本）
- ・「韓国で実施する統合沿岸管理における計画とガバナンス」  
Prof. KANG, Jung-woon, (Dept. of Public Administration, Changwon National University, KOREA)
- ・「インド沿岸域の環境問題解決に向けた法的挑戦」  
Dr. PERIYADAN KATINHIPPALLY, Dinesh Kumar (NATIONAL INSTITUTE OF OCEANOGRAPHY REGIONAL CENTRE, INDIA, REGIONAL CENTRE, INDIA)
- ・「行政境界を越えた海洋汚染ミチゲーション：渤海環境管理プロジェクト」  
Dr. Huming Yu, (China Institute for Marine Development, CHINA)
- ・「ノースカロライナ州の沿岸域管理システムの創造：ケーススタディ」  
Prof. SCHOENBAUM, Thomas J. (University of Georgia School of Law, USA)
- ・「地中海の水産資源管理と新しい欧州の水域フレームワークに対するフランスのアプローチ」  
Dr. HENOCQUE, Yves (IFREMER, FRANCE)
- ・「沿岸資源管理における境界を越えた考慮」  
Mr. JIANG, Yihang (Programme Officer, UNEP East Asian Seas Regional Co-ordinating Unit, (UNEP EAS/RCU), THAILAND)
- ・「閉鎖性および半閉鎖性海域における法的状況」  
Dr. GUNES, Sule (Middle East Technical University, International Relations Department, TURKEY)

総合討論

第5分科会ポスター発表者

Prof. SUPRIYADI, Indarto HAPPY (Research and Development Centre of Oceanology, Indonesian Institute of Sciences, INDONESIA) / Prof. RAMASAMY, Santhanam (Fisheries College & Research Institute, Tamilnadu Veterinary and Animal Sciences University, INDIA) / 加悦 秀樹 (瀬戸内の環境を守る連絡会, 日本) / Dr. MISHRA, Pravakar (Ocean research institute, The University of Tokyo, 1-15-1, Minami dai, Nakano Ku, Tokyo 164-8639, JAPAN) / 石田 健一 (東京大学海洋研究所, 日本) / 岸田 弘之 (国土交通省河川局海岸室, 日本) / 山田真由美 (JIA-QAセンター, 日本) / 竹ノ内徳人 (金沢工業大学環境システム工学科, 日本) / Dr. YEEMIN, Thamasak (Marine Biodiversity Research Group, Department of Biology, Faculty of Science, Ramkhamhaeng University, THAILAND) / Dr. SORENSEN, Jens C. (Harbor and Coastal Center, USA) / 程木 義邦 (財団法人日本自然保護協会, 日本) / 敷田 麻実 (金沢工業大学環境システム工学科, 日本) / Ms. ATHUKORALA, Kusum (NetWwaterNetwork of Women Water Professionals Sri Lanka, SRI LANKA) / 高山 進 (三重大学生物資源学部, 日本) / 清野 聡子 (東京大学大学院 総合文化研究科, 日本) / Mr. PASIA, Dante PAR (/MINILA BAYSAVERS' FOUNDATION, PHILIPPINES) / 漆畑 実 (東京湾岸自治体環境保全会議, 日本) / 菅波 完 ((財)世界自然保護基金ジャパン, 日本) / Dr. ARVANITIS, Agni

V. (Biopolitics International Organisation, GREECE) / Mr. MULAAMA-D'JIVETTI, Edward M. (Director, Environmental, KENYA) / 上坂 政章 (兵庫県県民生活部環境局水質課, 日本) / Prof. Stevenson, J. Court (Horn Point Laboratory, USA) / 大住 裕彦 (瀬戸内海環境保全知事・市長会議, 日本) / 飯塚 厚 (伊勢湾総合対策協議会, 日本)

11月20日(火)

有明海セッション (17:30~20:00)

コーディネーター  
瀬口 昌洋  
(佐賀大学教授)  
バイスコーディネーター  
加藤 治  
(佐賀大学農学部教授)  
ラポーター  
田北 徹  
(長崎大学水産学部教授)

口頭発表

- ・"The Flow Features and the Forming Process of Tidal Flat in Ariake Sea"  
加藤 治 (佐賀大学農学部教授)
- ・"Faculty of Agriculture, Saga University"  
魚谷 敏紀 (環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室, 日本)
- ・"Evaluation of Denitrification Capabilities in the Tidal Flats of the Ariake and Yatsushiro Inland Seas"  
岩橋 良憲 (熊本大学大学院自然科学研究科, 日本)
- ・"Collapse of Dominant Bivalve Populations on the Tidal Flats in Kumamoto Ariake Area and its Negative Influence on the Water Quality of Ariake"  
堤 裕昭 (熊本県立大学環境共生学部教授)
- ・"The Fauna in Ariake Sound and the Environmental Conditions which keep up its Uniqueness, with Special Reference to the Fish Fauna"  
田北 徹 (長崎大学水産学部教授)
- ・"Nori Culture in Ariake Bay"  
鬼頭 釣 (下関水産大学校教授)

11月21日(水)

海洋流出油の環境影響と対策セッション (17:30~20:00)

コーディネーター  
大和田 紘一  
(熊本県立大学教授)  
バイスコーディネーター  
岡田 光正  
(広島大学大学院工学研究科物質化学システム専攻教授)  
ラポーター  
牧 秀明  
(独立行政法人国立環境研究所流域環境管理プロジェクト海域環境仮チーム研究員)



## 基調報告

- ・「油流出事故による天然資源へのダメージ」  
Prof. **SCHOENBAUM, Thomas. J.** (University of Georgia, School of Law, USA)

## 口頭発表

- ・「干潟ならびに砂浜生態系に対する油濁の影響---油分の土壌浸透による海水流動阻害」  
岡田 光正 (広島大学大学院工学研究科, 日本)
- ・「干潟の微生物群に対する流出油の影響」  
片山 葉子 (東京農工大学農学部, 日本)
- ・「日本海沿岸部における原油バイオレメディエーション現場試験」  
牧 秀明 (国立環境研究所, 日本)
- ・「重油水溶性画分の沿岸生態系への影響に関するメソコスム実験」  
大和田紘一 (熊本県立大学環境共生学部, 日本)
- ・「石油多環芳香族PAHsの分解と閉じた生態系メソコスムを利用したムラサキガイへの蓄積に関する研究」  
山田美穂子 (東京農工大学農学部 水環境保全学高田研究室, 日本)
- ・"Mussel Watch" at the Crimea Coastal - Some Results of Long Term Oil Pollution Monitoring."  
Dr. **OSADCHAYA, Tatyana S.** (Institute of Biology of the Southern Seas (IBSS), Department of Marine Sanitary Hydrobiology, UKRAINE)
- ・「ナホトカ重油によるPAHs汚染からの生物の回復」  
小山 次朗 (鹿児島大学水産学部, 日本)
- ・「ナホトカ号による重油汚染が沿岸生態系に与えた影響(1) - GISによる影響評価に向けたアプローチ -」  
小松 輝久 (東京大学海洋研究所, 日本)
- ・「ナホトカ号による重油汚染が沿岸生態系に与えた影響(2) - 大型藻類植生の回復 -」  
川井 浩史 (神戸大学内海域機能教育研究センター)
- ・「ナホトカ号による重油汚染が沿岸生態系に与えた影響(3) - 動物群集の回復 -」  
山本 智子 (鹿児島大学水産学部附属海洋資源環境教育研究センター, 日本)
- ・"Massive Environmental Degradation in Parts of the Oil Producing Areas of Niger Delta of Nigeria"  
Prof. **EGBOKA, Boniface EZEANYAOHA** (National Institute for Environmental Studies, NIGERIA)
- ・「沿岸生態系の経済的価値」  
竹内 憲司 (神戸大学大学院経済学研究科, 日本)

## 総合討論

11月22日(木)

## 瀬戸内海セッション (9:30~12:00)

瀬戸内海という「場」を通じて研究者、NGO、行政がそれぞれの立場から

話題を提供し、全体の中で討議する「瀬戸内海セッション」を開催し、これまでに瀬戸内海で何が行われてきたか、また何が行われなかったのか、21世紀においてどうすべきかを検証・提起する。

## コーディネーター

櫻井 正昭

((社)瀬戸内海環境保全協会顧問)

## ラポーター

柳 哲雄

(九州大学応用力学研究所教授)

## 報告及び討議参加者

- ・井上 正治 (北九州市環境局環境保全部長)
- ・金子 信義 (山口県漁業協同組合連合会専務理事)
- ・岡市 友利 (瀬戸内海研究会議長)
- ・白幡洋三郎 (国際日本文化研究センター教授)
- ・阿部 悦子 (環瀬戸内海会議代表 (愛媛県議会議員))
- ・薦田 直紀 ((財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長)
- ・平山 孝信 (関西電力(株)環境技術グループマネージャー部長)
- ・柴垣 泰介 (環境省水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長)
- ・宇塚 公一 (国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官)
- ・福田 幸司 (近畿地方整備局港湾空港部長)
- ・ジェーン・ニシダ (米国・メリーランド州環境省長官)

## 総括の全体会議 13:00~15:30

## コーディネーター

渡辺 正孝

(独立行政法人国立環境研究所水士圏環境研究領域長)

ウェイン・ベル

(米国・ワシントン大学環境社会センター所長)

会議の総括と宣言文の討議を行う。

## 報告及び討議

## ・基調報告

テーマ：「エメックス活動がこれまでに果たしてきた役割と21世紀における活動戦略」

ウェイン・ベル

(米国ワシントン大学環境科学センター所長)

- ・分科会等報告 各分科会・特別セッションのコーディネーター
- ・全体討議
- ・宣言文討議

## 閉会式 15:45~16:30

## ・進行

熊本信夫

(運営委員会委員長)

ウェイン・ベル

(プログラム部会副部長)

総括及び神戸・淡路宣言採択

ベストポスター表彰

次期開催地宣言 プロドブランソップ スラウスディ(タイ国森林省長官)

閉会挨拶 井戸 敏三(兵庫県知事)

閉会宣言 茅 陽一(第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会副委員長)

## 世界の架け橋となったストックホルム世界水週間



ストックホルムでの世界水週間の期間中の中心的な催し物である「ストックホルム・ウォーター・シンポジウム」の今年のテーマは、「21世紀に向けた水の安全性：対話による架け橋」です。このテーマは、30以上の主な国際及び国家機関と約100カ国を代表する1000人以上の参加者に支えられて、この水週間に開催された全ての異なる催し物に反映されました。異なる利害関係者の代表による対話は真剣で内包的なもので、また水の安全性に向けた解決されるべき問題を明らかにしました。



### ストックホルム・ウォーター・シンポジウム

内部関係者の対話促進や減少している淡水供給を増大するための排水の再利用、ダム開発の賛否、農業や産業利用、エネルギー生産を含む社会経済発展のための淡水の重要な役割などといった多彩な問題をシンポジウムの議題は含んでいます。

シンポジウムの分科会やワークショップ、様々な特別セミナーにおける討議では、お互いに競合する水利害に関する大きな対策に焦点が当てられました。全体テーマである「対話による架け橋」では、統合水資源管理に関する交渉や政策決定のベースとして、水に関する異なる競合者を明らかにし、双方向理解を創造していく主な対象を反映しています。

重要な討議項目は、人口増大起因する来る25年の食料需要に適合するための農業における水利用増大の要求である。しかしながら、環境保護者等は、今日においても既に妥協できない水生生態系の重大な水状況を指摘している。

世界で最も影響力のある自然保護や灌漑（かんがい）食糧安全に関する10の組織を含む水・食糧・環境に関する対話のための国際協会がこの矛盾を明らかにするために形成され、初めての公開プレゼンテーションをストックホルムで行いました。

焦点があてられたそのほかの架け橋としては、産業と他の水利害者との関係であります。特に、産業水質汚濁が討議され、その主な問題は、大きな国際的な会社やビジネスではなく、法的整備がおくれている、未熟な管理機構となっている地域での中小の産業ですと結論づけられました。産業はまた、水需要の増大する必要性を強調しましたが、ストックホルム・インダストリ・ウォーター賞を受賞したゼネラル・モータース・メキシコ工場のように、水が不足する地域における効果的な水利用の増大を示しています。

「シンポジウムでの対話は行動に向けたいくつかのオプションを示唆している。また、水の安全性が将来のみならず今日の現実となってきていることを理解し確かめる時期にきている。」とSIWI マーリン ファルケンマーク教授（シンポジウムの科学プログラム委員会委員長）が述べた。このような行動に向けたオプションは、2002年8月12 - 15日に開催される第12回ストックホルム・ウォーター・シンポジウム「競合する水利用のバランスをとる：現状と将来の見通し」で取り上げられる予定です。



### ビクトリア湖とバルト海に関するセミナー

東アフリカとバルト海地域における専門家と政治家が、ビクトリア湖とバルト海流域における持続可能な開発と水の安全性についての討議や過去や現在進行中の活動から得られた経験の利用と情報交換の可能性の討議を行いました。この2地域の現状に関するプレゼンテーションに基づき、特にNGOの公式・非公式のネットワークの役割について討議され、この種のネットワークがプロセスを加速させる道具であるとの結論が得られました。

### 流域の水連帯に向けて

SIWIの年次セミナーでは、都市、食糧、環境のための水の安全性について討議されました。水連帯をどのようにして現実的な方法でおこなうか、水の安全性と食糧の安全性、環境の安全性の関係はなにか、どの主要な問題点を明らかにする必要があるか、どのようにして解決していくかが問われた。多くの河川流域やその主な問題点が発表され、協調管理体制に向けた報告性の解析が検討された。

### 優秀な水活動に対する賞

優秀な水活動を賞賛するため、水週間では4つの賞（ストックホルム・ウォーター賞、ストックホルム・インダストリ・ウォーター賞、スウェーデン・バルト海・ウォーター賞、ストックホルム・ジュニア・ウォーター賞）が贈られました。

ストックホルム・ウォーター賞は、スウェーデン国王グスタフ・カール14世により、カリフォルニア大学ディビス校 Takashi Asano教授にストックホルム・シティ・ホールで手渡されました。Asano教授は、日本生まれですが米国籍を持ち、再循環水の安全で有益な使用に関する世界で最も著名な専門家です。第2回ストックホルム・インダストリ・ウォーター賞は、ゼネラル・モータース・メキシコ・ラモス・アリスベ工場に対して「水の拡大利用や排水処理、海水を手軽な水に変換するリサイクル技術、希少資源の保全」という観点から贈られました。またスウェーデン・バルト海・ウォーター賞は、ロシア・ピーターズバーグ出身のLeonid Korovin氏に、バルト海の水環境改善をもたらした教育や多国間の協力に関する彼の努力に対して贈られました。ストックホルム・ジュニア・ウォーター賞は、「Leachateからの金属イオンの除去」プロジェクトに取り組むスウェーデンのチームが受賞しました。



## セマングム干潟を救え! シファ湖の悲劇はもういない!

ハン・キョング(Kyung-Koo Han)  
国民大学(Kookmin University)



昨年5月末、韓国総理府は論争を呼んでいる全羅北道のセマングム干拓事業(Saemangeum Tidal Flat Project)を進めると発表した。この決定は、1991年に着手されたこの計画の実行可能性について、2年に渡り研究や議論が重ねられた後に下されたものである。もともとは、全羅北道の海岸に33kmの堤防を建設し、40,100ヘクタールの干潟を、28,300ヘクタールの農地と灌漑のための11,800ヘクタールの淡水貯水池に変える計画であった。しかし政府は、建設予定の貯水池の水質に対する社会広範囲の懸念が高まってきたことを受け、当初の計画を変更し、その水質が許容レベルに達するまでマンギョン川(Mangyeong River)の開発を見合わせ、ドンジン川(Dongjin River)を先に開発することにした。

計画の提案によると、計画の公式目的は将来確実に訪れるであろう世界規模の食糧危機の時代に“食糧安定性”を確保するため農地を作ることであった。しかし、本当の目的は政治的であるように思えてならない。大統領候補のノ・テウ(Roh Tae-woo)氏とそのキャンペーンマネージャーは、韓国の経済急成長と開発の過程で取り残されたと感じている全羅道の人々に何かを与えねばならなかったのだ。このようにしてセマングム干拓事業は、全羅北道の人々にとって開発のシンボルとなっていった。実際、全羅北道の知事は、新たな工業団地が建設されると繰り返し言い、セマングムは経済発展の口火を切り地域は繁栄するだろうと地元の人々が信じるようになった。

多くの経済学者は、計画の経済的な実現可能性に関し疑問視する声をあげ、政府がコスト-利益比率を操作し、不正行為を働いたのではと指摘したが、セマングムは今、全羅道の人々にとって農地や工業団地以上のものなのである。

さらに、環境に危険を及ぼす可能性があるとして、セマングム干拓事業は市民活動家達の批判的となっている。環境保護論者達が貯水池の水質問題について懸念を強めた時、1998年に建設は中断され、計画の実現可能性を検証するため専門家・NGO代表者・ジャーナリストら22名で構成される審査委員会が結成された。しかし、委員会は分裂し結論に至らなかった。審査委員会構成上の問題は、単に水質・環境・経済的な実現可能性に興味を持っていただけで、個人やその地域に住む20,000人もの人々に長期的に及ぼす影響を考慮しなかった点にある。環境災害に終わったシファ湖干拓事業(Shihwaho Project)のように、セマングム干拓事業は、地域に住む人々への影響に対し当然払われるべき考慮を受けることなく設計され進められてきたのだ。

私はシファ湖地域の人々とセマングム地域の人々に実質的に同じことが起こっているのを知り、大変衝撃を受けた。1997年、私と同僚がシファ湖の干拓事業が地元の人々に与える影響を研究し、『シファ湖の人々に何が起こったか?』(日本語版タイトル『海を売った人々』)という本を出版した時、我々は事後分析(埋立事業は終了し、環境は破壊された)を行っているのだと自分達に言い、このような海の“殺人”の再発を防

ぐことを願った。

ところが、私がセマングム干拓事業の地元の人々に与える影響を研究し始めた時、彼らは自分たちの生活に何が起るのかに関し、情報を与えられていないことがわかった。人々の暮らしは漁業と干潟での採取に依存していたので、新しい環境に順応するため十分な資金援助と職業訓練を必要としたが、これらは受け入れられなかった。さらに、彼らが補償を受ける最後のチャンスだという噂に脅かされ、なげなしの補償を受け入れざるを得なかった。

今、多くの住民は騙されたと感じている。彼らは無知で無力だったので自分達の暮らしを失ったと思っている。こういう理由で彼らは自分達を恥じ、あえてかなりの間計画に関して声をあげなかったのである。したがって、地域で反対勢力が組織され始めたのは2000年シファ湖貯水池の環境災害が公衆に知れ渡った時に過ぎない。地元の指導者の中には、

『シファ湖の人々に何が起こったか?』を読んで同じような破壊が家族や地域生活に起ころうとしていると気付いた人もいる。彼らはシファ湖地区への旅行を企画し、実際にそこへ行き、シファ湖の人々と語り合い、彼らの経験を聞いた。

“セマングム干拓事業に反対するファン(Pu'an)住民の会”はこのようにして生まれた。リーダーのシン・ヒョンロク(Shin Hyong-rok)は、20以上の主な環境市民グループ連合の事務総長に就任し、昨年3月、政府がセマングム干拓事業を進めるかどうかの結論を通知するのが遅かったのは、明らかに社会批判が落ち着くまでの時間稼ぎだとして、政府を告訴した。また聞く耳を持たない政府に対し、計画の実行可能性を最初から見直し、環境面で破壊的な計画に対し増え続ける社会の懸念に対し回答すべきだと強調した。

不幸にも彼の言葉は正しいことが判明した。韓国総理府は持続開発のための大統領直属のコミッション(Presidential Commission for Sustainable Development)と水資源行政のための土木委員会(the Civil Committee for Administration of Water Resources)からの提案や他の専門家の意見や警告を全く無視して計画を進める決定を発表した。特に衝撃的なことは、総理府は仮に提案されたすべての手段(極めて実現性のないものも含む)を駆使したとしても、事実上水質を向上させるのは不可能だろうとの結論を含む環境省からの最終通告を無視したという事実である。

多くの地元の人々や環境保護活動者は今、この総理府の決定は、環境とともに民主主義の秩序にとっても重大な脅威だと考えている。こうしてセマングム干潟保護のための戦いは続く;我々は政府が常識や専門家の意見を無視し、政党問題のために民主主義のルールを破ることを簡単に許すことはできないのである。



[http://kfem.or.kr/wetland/html/korean\\_wetland.html](http://kfem.or.kr/wetland/html/korean_wetland.html)



## 会 議 情 報



沿岸域カナダ2002五大湖

### 「公共水域の管理:持続可能で境界を越えた沿岸生態系に向けて」



カナダ・オンタリオ・ハミルトン, 2002年6月24-28日

「公共水域の管理:持続可能で境界を越えた沿岸生態系に向けて」では、政策立案者や加賀飼う者、企業リーダー、NGO、若者、その他興味ある意志決定者たちが境界を越えた水域の国際的な管理や、特に五大湖やセント・ローレンス河口域におけるカナダと米国の経験を概観するために集まります。この会議では、海や淡水域での管理について現場で携わる方々で専門知識を分かち合うフォーラムも開催されます。そのフォーラムの焦点は、海の沿岸域や海岸における生態系や淡水域の生態系を改善したり保護するための理解力(capacity)です。

沿岸域生態系は、地球上で最も複雑な環境システムの一つです。それは、社会や科学、公共政策の展望から地球共同体のための特色のある挑戦を提供しています。この自然の複雑が多く境界を越えた機関の管理責任を共有することで調整される時、戦略的統合的アプローチの必要性がさらに重要となります。このことは、水資源の増大する需要や水質悪化が海洋沿岸域と淡水域システムに対して重大な歪みを与えることが予想される時代に私たちが入りつつあるときの主な挑戦であります。

「公共水域の管理 / 沿岸域カナダ2002五大湖(CZC2002)」では、沿岸域や海浜に問題、つまりに、進捗状況の評価や運動創設能力参加、将来の必要性を調査、将来の行動のための戦略の提示するために、現実的で前向きな統合的な解決策を探している主な意志決定者集団の代表者たちが一同に集います。この催しは、北米の五大湖・セント・ローレンス河口域の中心で開催され、この淡水沿岸域で経験した過去の成功例と将来への挑戦を会議の重要な要素としています。

Pollution Probeやカナダの環境NGO、沿岸域カナダ協会がこの会議を共催しています。CZC2002は、沿岸域カナダ協会によって2年おきに連続して開催される国際会議で、今回で第5回を数え、それぞれの会議は、前回の会議の提示された事項によって組み立てられています。

#### 会議の目標と目的

統合された水資源管理の実施に向けた支援を提供することは、公共水域の管理 / CZC2002のベースを形作ります。会議の主な目標は、現状において持続的な試行をを実施する国際的なコミュニティの理解力の必要性に本気で取り組むことです。境界を越えた持続的な沿岸生態系のための実践の効果的な適用に関する討議を促進するためにケース・スタディーが用いられる予定です。

水資源管理に向けた持続的な回答を見つけることは、いくつかの特定分野、例えば、十分な知識、情報の共有、問題を理解し取り組むための教育、資源の監視や規制のための適切な研究準備や協調や、これらの資源が将来の世代のために保全されることを保証する製品やサービスといった問題に対応するための便利なツールや技術、での理解力を必要としています。これらの分野は会議期間中に行われるプレゼンテーションやワークショップのための焦点として役立つ

つでしょう。

公共水域の管理 / CZC2002は、カナダで4番目に長い沿岸域で非常に人口が多く産業が発達している五大湖 / セント・ローレンス河口域で開催されます。

- \* ケーススタディーのセットや境界を越えた海洋沿岸域と淡水域の管理の実生活への適用を調査、及び特に五大湖とセント・ローレンス河口域におけるカナダと米国の経験の概観
- \* 海洋と淡水システムのための境界を越えた沿岸域生態系の管理のための原則や試行に関する国際的理解力の評価
- \* 水管理者や意志決定者に対する、境界を越えた持続可能な生態系管理の効果的な実施のためのツールと方法論の付与
- \* コミュニティの役割認識や陸域に起因する活動による影響、沿岸域生態系の環境状態をモニターする効果的な方法のための必要性を含む、沿岸域カナダ2002会議によって作成された2つの報告書、「2000年ベースライン」と「2000年後」の提案事項に基づく立案
- \* 境界を越えた沿岸域生態系管理の国際的理解の改善のための提案事項や戦略を含む会議結果を要約した報告書の作成

#### 会 場

公共水域の管理 / 沿岸域カナダ2002は、カナダで4番目に長い沿岸域で非常に人口が多く産業が発達している五大湖 / セント・ローレンス河口域で開催されます。参加者は、オンタリオ湖のそばにあるハミルトンでの開催地でのフィールド旅行や心温まる催し物を通して、生態系の掃除や修復のためのカナダが最初に先導してきた努力の一つを調べるユニークな機会に巡り会えるでしょう。ハミルトンはまた水、環境、健康に関する国連大学国際ネットワークの地元で、カナダで一番の水質研究所施設である内陸水域のためのカナダセンターがこの市のすぐ郊外にあります。ハミルトンは、トロント市やナイアガラ滝、米国国境から約1時間の場所にあります。

締め切り

- \* 会議アナウンスメント、論文やパネル、ポスター、分科会募集(2001年秋)
- \* 仮プログラム(2002年春)

詳しくは以下の連絡先まで

#### Managing Shared Waters

Pollution Probe 402-625 Church St.  
Toronto, Ontario M4Y 2G1 Canada

Phone: +1-416-926-1907 Fax: +1-416-926-1601

Email: [managing.shared.waters@pollutionprobe.org](mailto:managing.shared.waters@pollutionprobe.org)Web: [www.pollutionprobe.org/managing.shared.waters/index.htm](http://www.pollutionprobe.org/managing.shared.waters/index.htm)

### 事務局からのお知らせ

#### 会員入会のご案内

財団法人国際エメックスセンターでは、行政・研究者・事業者・市民等の各主体間の有機的ネットワークを構築し、国際的かつ学際的な交流を推進するとともに、調査研究及び研修の実施並びに活動に対する支援等の事業を行い、もって閉鎖性海域の環境の保全・創造及び多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会の構築に寄与することを目的としています。

この目的のために活動する当センターの発展・充実のため、ご賛同いただけるみなさまのご協力、ご参加を心よりお待ちしております。

また、みなさまのお近くの方にも是非、本会をご紹介します。

#### 投 稿 募 集

編集・発行及び連絡先

財団法人 国際エメックスセンター

閉鎖性海域に関する研究や会議等の読者からの情報提供をお待ちしております。(謝金・原稿料はありません。)

615-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1 国際健康開発センタービル3階  
TEL:078-252-0234 FAX:078-252-0404  
HP: <http://www.emecs.or.jp> E-mail: [secret@emecs.or.jp](mailto:secret@emecs.or.jp)

《年会費》	団体会員	100,000円
	NGO団体	30,000円
	個人会員	10,000円

#### 《特典》

- 1 当センターが主催または共催するシンポジウムセミナー等に優先的に参加することができる。
- 2 当センターが有する最新の情報の提供を受けることができる。
- 3 当センターが実施する調査研究プロジェクトの形成などに参加できる。

入会を希望される方は、財団法人国際エメックスセンター事務局までお問い合わせください。